

現場の課題にお答えします!

森山潤教授が
日本産業技術教育学会の
学会賞(論文賞)を受賞

平成29(2017)年度連合学校教育学研究科修了生の阪東哲也さんとのLED発光教材を使った小学校でのプログラミング教育に関する共著論文が評価され、平成30年8月に受賞。森山潤教授は「今後も小学校プログラミング教育の発展に資する研究を積み上げていきたいです」と語った。



日本ストレスマネジメント学会
第17回学術大会ポスター発表
最優秀発表賞受賞

修士課程学校心理・学校健康教育・発達支援コース2年の瀬川真生さんと藤原忠雄教授による中学生のひきこもり親和性をテーマとしたポスター発表に、最優秀発表賞が贈られた。瀬川さんは「今年、現場に復帰予定なので、研究の成果を現場の保健指導に生かしたいです」と意気込みを語った。



日本トレーニング科学会
トレーニング科学研究賞
大賞を受賞

連合学校教育学研究科2年の榎本翔太さんと、岡山大学教育学研究科の加賀勝教授、本学の小田俊明准教授による共同研究が、研究賞大賞を受賞。榎本さんは、「多くの人に協力していただいた研究が評価されたことを大変うれしく思います」と喜びを語った。



きくちひとし
菊池仁志

兵庫教育大学附属小学校教諭



学習指導要領が変わり、
道徳科の授業で工夫したら
いいことは何ですか。



キャンパス
トピックス

QUESTION & ANSWER

道徳科としてスタートした教科化元年。各学校では、道徳科の授業についてさまざまなことを検討し、授業に臨んでいることと思います。

私が道徳科の学習で大切にしていることは、2点あります。それは、子どもが「自分との関わりで考えること」と「多面的・多角的に考え、一人一人が納得解を持つこと」です。

1 点目の「自分との関わりで考えること」とは、自分の経験と重ね合わせて考えたり、自分だったらどうするか考えたりすることです。登場人物の行為に着目することで、自分との関わりで考えやすいと捉えています。

2 点目の「多面的・多角的に考え、一人一人が納得解を持つこと」とは、他者との対話を通して、子ども自身が多様な考えを持ち、自分のこれからの在り方を考えていくことです。1 時間の学習が終わったときに、子どもが前向きな心で自分がこう在りたいと思えるようにしています。

このような子どもの姿を引き出すために、授業で工夫していることは以下の2点です。

1 点目に、登場人物の行為に着目した発問を組むことです。人物の行為に着目することで、その行為に含まれる気持ちや考えを自分なりに持つことが

できると考えています。

2 点目に、自分との関わりの中で考えられるように、体験的な学習を取り入れています。私の実践の多くは、子どもたちが登場人物になりきって演じる役割演技や動作化を取り入れています。登場人物を演じることで、言葉だけでなく、動きにも思いや考えを込めることができるので、子どもたちの対話も充実する手立てとなっています。授業展開はさまざまあると思いますが、大切なのは子どもの学びが保証されているか、道徳科で学んだことを自分の生き方に生かそうとしているかだと思えます。